

越智文雄の一言モノ申す!

株式会社あかりみらいの越智文雄社長が、安心安全な未来に向けた“気づき”を発信するコラム。
エネルギー・防災・防疫などの幅広いテーマで辛口甘口、縦横無尽に斬り散らかす!

巨大津波は30年以内に 80パーセントの確率でやってくる

7月30日、カムチャツカ半島を震源とするマグニチュード8.8の地震による津波が来波した。

津波災害を反省し次に生かす

今回のような遠来の津波ではなく、南海トラフ地震は30年以内に80パーセントの確率で発生し、沖縄には1時間で最大5メートルの津波が来襲すると予想されている。ある日突然、思いもよらない時にというのが災害である。知事、市町村長、防災危機管理担当官は、今回の津波災害対応の詳細な調査を行い、今回の防災訓練へ反映すべきである。今回は当初1メートルの注意報だったものが、いつの間にか3メートルの警報に変わっていたのには驚いた。1メートルでも全力で避難しなくてはならないのに、3メートルの大津波警報への変更は大変ショックな事態だった。

昨年4月の台湾近郊を震源とする沖縄への津波警報では、避難する車の渋滞や、外国人観光客への警告の不伝達など反省点も多かった。短時間で来襲する津波には、高齢者や弱者が走ったとしても高

台や津波タワーには到達できない。北海道大学の津波研究チームの実験では、若い学生たちが全力で駆けて津波タワーの階段にたどり着いた時点でシミュレーションの津波に呑みこまれてしまった。今回の地震でも車で避難した人たちが渋滞で立ち往生したという例が多く報道されている。避難所の学校のグラウンドに車で乗り入れてもいいのか、渋滞したら車を降り捨ててもいいのか。困難な決断であっても事前にルールを決めておくのが防災マニュアルである。

北海道ゾーンに救命胴衣を

10億円の避難タワーを造るよりも、救命胴衣を沿岸全家庭や施設に配備することが生き残る人を増やす現実策になる。救命胴衣を着装しての避難をマニュアル化して訓

練するべきだ。世界中の飛行機の離陸時に救命胴衣の着け方をアテンションするのは666年に1回海に墜落することを想定した危機管理である。30年間に80パーセントの確率でやってくる巨大津波に救命胴衣を用意していない方がおかしいと思うのだが、いかがだろうか？

悲しい想定だが、逃げ遅れたご遺体を全て回収するまでが防災担当者の仕事である。ウレタンの救命胴衣を着けていればご遺体も2カ月間は浮いているそうである。

車からの給電をマニュアル化する

今回の津波では猛暑の避難所で



安全給電キット寄贈



次亜塩素酸水溶液生成パウダー寄贈



越智 文雄
エネルギーコンサルタント
防災・危機管理アドバイザー

1957年生まれ。80年より北海道電力・電気事業連合会に勤務。97年、電事連でCOP3に立ち会う。2008年、北海道洞爺湖サミット環境総合展事務局長。12年、株式会社あかりみらいを起業。全国のカーボンニュートラル対策、完全LED化に取り組む。「(一社)日本の灯りを護る会」代表、(一社)日本自然冷媒研究開発機構理事、(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事。

株式会社あかりみらい

akarimirai

自然冷媒ガスのお問合せはこちら

☎ **0120-760-814**

フリーダイヤル受付(平日9時～17時30分)

あかりみらい

【沖縄あかりみらい(株)】

沖縄県那覇市久茂地2-19-5

【札幌本社】

北海道札幌市北区北11条西2-2-17
セントラル札幌北ビル4階

【東京支社】

東京都中央区日本橋室町1-2-6
日本橋大栄ビル7階

【大阪支社】

大阪府大阪市北区梅田2-2-2
ヒルトンプラザウエストオフィスタワー18階

株式会社あかりみらいプレゼンツ

越智文雄の一言モノ申す!